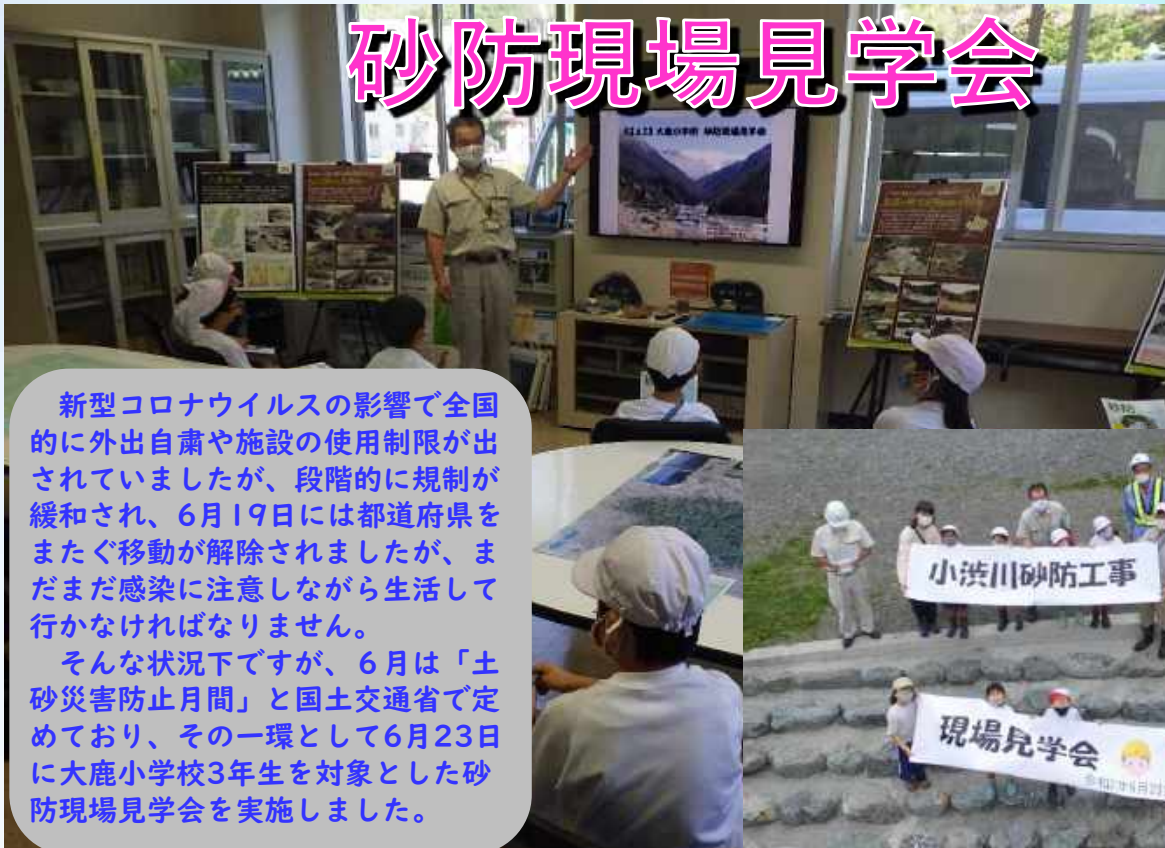




砂防現場見学会



新型コロナウイルスの影響で全国的に外出自粛や施設の使用制限が出されていましたが、段階的に規制が緩和され、6月19日には都道府県をまたぐ移動が解除されましたが、まだまだ感染に注意しながら生活して行かなければなりません。

そんな状況ですが、6月は「土砂災害防止月間」と国土交通省で定めており、その一環として6月23日に大鹿小学校3年生を対象とした砂防現場見学会を実施しました。



砂防の学習



砂防ステーションでビデオや模型を使い「砂防」について学びました。

砂防堰堤の見学



砂防堰堤を見学し、その役割を学び、大きさを体感しました。

建設機械の操作体験



砂防工事現場に行って実際に建設機械に乗って操作の体験をしました。大きな機械でたくさん土を掘り、みんな笑顔で楽しそうでした。

測量体験



現場で使っている測量機器を操作し、距離と方向を確認しながら目標の位置を探しました。

目標の位置を探し出し、そこを掘り返してみると……

「お宝」発見!!

ドローンによる空撮



現場の測量や写真撮影に使用するドローンを飛ばしました。普段見れないアングルからの映像に大喜びでした。

魚の放流



「塩の里」付近の塩川で魚の放流を行いました。魚の放流を通じて自然の大切さを感じてもらいました。

【現場スタッフからの一言】

新型コロナの影響で、普段の生活や仕事等で不便な状況が続いている中、見学会を通じて元気な子供たちの姿はこちらにも元気を与えてくれました。今施工している砂防工事が、地域の安全を守れる施設となるよう、しっかり工事を進めて行きたいと思います。

裏面もご覧ください

特定外来生物とは？

「特定外来生物」とは、外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。（環境省ホームページより）

テレビでは池の水を全部抜き外来生物を駆除する番組が放映されていますが、村内でも6月から7月にかけて固有植物の生育を脅かす特定外来生物が繁殖している状況が確認できます。

大鹿村で固有植物の生育を脅かす特定外来生物



国道152号の路肩に咲く特定外来生物「オオキンケイギク」

オオキンケイギク（大金鶏菊）はキク科の植物の一種で、黄色い花を咲かせます。北アメリカ原産の宿根草で、日本ではドライフラワーに利用されていましたが、外来種として野外に定着して問題となり、現在は栽培が禁止されています。

大鹿村で防除確認を受けている特定外来生物（オオキンケイギク以外）



アレチウリ

オオカワチ"シヤ

オオハンゴンソ

ナルトサワギ

大鹿村は特定外来生物の防除について下表のとおり環境省より許可が出ていますが、詳しいことは大鹿村役場に確認が必要です。

確認・防除の要否	確認・防除の対象地域	特定外来生物の種類	確認・防除の時期	防除を行う時期	防除を行う区域	防除の内容	注意
確認	大鹿村	オオキンケイギク、オオハンゴンソ、ナルトサワギ、アレチウリ、オオカワチシヤ	平成23年01月14日	平成23年01月14日から令和03年03月31日まで	長野県下伊那郡大鹿村全域	計画的な防除として、オオキンケイギク等の刈り取り・引き抜き等を行い、適切に処分する。	環境

出典：環境省ホームページ



三六災害から59年

梅雨時期とは思えない晴天の6月29日、三六災害でお亡くなりになられた方々の慰霊献花式が開催されました。大鹿村長、国土交通省天竜川上流河川事務所長をはじめ、関係の皆さんが参列し献花を行いました。砂防・地すべりに対する工事は毎年実施されていますが、異常気象等により、昨年も豪雨により全国的に、特に長野県内で甚大な災害が発生しています。

来年は災害から60年を迎えます。この災害で尊い命を落とされた方がたくさんいるという事実を風化させることなく、命の重さを皆で考え、後世へ伝えて行かなければならないと感じました。

【小渋川砂防出張所管内 新しい現場の紹介】

令和2年度 天竜川水系滝沢第2砂防堰堤工事
小澤建設株式会社



現場代理人
飯塚 聡



監理技術者
戸枝 俊夫

小渋川砂防出張所の管内におきまして滝沢第2砂防堰堤工事を施工します。工事期間中は大変ご迷惑をお掛けしますが、安全第一で工事を進めて参りたいと思いますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

